

全国協議会 ニュース

2016年6月1日発行 第288号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和 (会長)
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp



コーディネート期間短縮化は至上命題！

5月28日(土)、東京港区の日本赤十字社本社大会議室にて「2016 全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京」が、全国から約100名の参加者を得て開催されました。全国の仲間が一堂に会し、互いに学び交流する機会であり、改めてみんなで頑張ろうと認識を新たにしました。

第1部・式典

主催者挨拶に引き続き、ご来賓の厚生労働副大臣、日本骨髓バンク理事長、日本赤十字社血液本部長、骨髓・さい帯血議員連盟会長の方々から、心温かな祝辞をいただきました。その後、日本商工会議所様、プルデンシャル生命保険株式会社様、トヨタ自動車株式会社様への感謝状贈呈を行いました。

第2部・記念シンポジウム

「造血細胞バンク事業・法制化3年目」をテーマに、パネリストとして厚生労働省移植医療対策室・鈴木章記室長をはじめ、日本骨髓バンクから小寺良尚副理事長、日本赤十字社の高梨美乃子血液事業本部技術部次長、造血細胞移植医の立場から虎の門病院の谷口修一医

師をお迎えして、当協議会の野村正満理事長、菅早苗副理事長も参加して、現状と課題について話し合うパネルディスカッションを行いました。

「移植に用いる造血細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行から3年目、法律が出来てからの変化は、現状と課題はなにか、法律の見直しの必要性はないのか、などをみんなで一緒に考える場としました。ここ最近、骨髓バンクの移植数をさい帯血移植数が上回るなど、移植環境が変化しているのではないかと、移植現場の動向・治療選択の順位付けは?こうした状況の中、骨髓バンクのコーディネート期間短縮化は、どうなっているのか?事業の効率化や患者負担金値上問題などについて、パネリストの発言に注目が集まりました。

厚生労働省の鈴木室長から、行政の取り組みと今後の考え方について、熱意あるご講演をいただきました。(講演要旨は別掲) 移植の現場を良く知っておられる専門医である谷口先生と小寺先生のお二人からは、現在のところ移植のソースは、第一選択としては同種

移植(血縁でドナーがない場合には骨髓バンクドナー)であり、病状が移植までの時間がない患者さんは、さい帯血または、ミスマッチの血縁ドナー(ハプロ移植)であることなどを話されていました。さい帯血移植とハプロ移植の広まりは、患者さんにとって、治療の選択肢が広がったことであり、どちらか一方だけが優れた医療であるというものではないこと。ただし、骨髓バンクのコーディネート期間短縮化は至上命題であり、関係者が一丸となって取り組まなければならない課題ということが良く理解できました。そして、まだまだ骨髓バンクの発展のために、みんなが頑張らなくてはならないと認識を新たにしました。

現在の法律は、これまでの現状を追認するもので、患者擁護の視点という概念が入っていないこともあり、患者救済とドナーの保護のためにこれからも考えて、そして行動していかなくてはならないと感じたシンポジウムでした。

お忙しい中、パネリストの皆さまにご参加いただき、貴重なご意見をいただきましたことに深く感謝いたします。(文 菅早苗)

記念シンポジウムは、今号と次号に特集掲載します

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《財団マンスリー JMDP(5月13日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2016年4月末現在)

	3月	4月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,103	2,614	459,365	666,389
患者登録者数	261	232	3,284	47,824
移植例数	96	100	—	19,397

■4月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/683人、献血併行型集団登録会/1,881人、集団登録会/0人、その他/50人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■4月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,026人/20代 70,018人/30代 141,213人/40代 192,513人/50代 52,595人

■4月の20歳未満の登録者439人

■4月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数: 165件

白血病フリーダイヤル
0120-81-5929

毎週土曜日 10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みのお相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

造血幹細胞移植の現状と課題

厚生労働省健康局難病対策課 移植医療対策推進室長 鈴木章記



今日は、私も行政の取り組みや考えなどについて、スライドを使ってお話しします。最初は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供

に関する法律」の概要(図表1)です。法律の目的・法律の主な内容のスライドです。今日お集まりの皆さんは良くご存知のことだと思います。誤解があるといけませんので念のために申し上げておきますと、法律は出来たからと言って直ぐにお金が出るというのではなく、取り組

むべきスキームを着実に進めることを第一に考えて当たり前のことを規定しているものです。

なお、移植医療は、一般的医療と大きな違いがあります。それは、ドナーがいなくては成り立たないという点です。基本的にドナーのことを

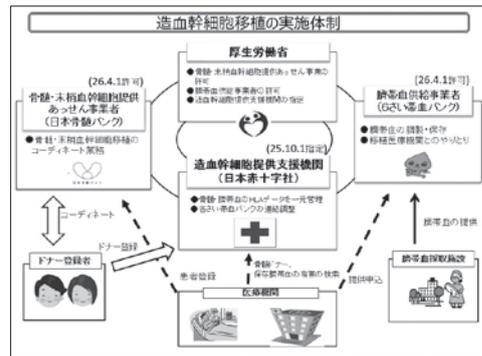
「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供に関する法律」の概要	
(24.9.12公布、26.1.1全面施行)	
法律の目的	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図り、もって造血幹細胞移植の円滑かつ適正な実施に資する。(＝患者がよりよい移植を受けられる)
法律の主な内容	<ul style="list-style-type: none"> 造血幹細胞の適切な提供の推進に関し、基本理念、国やバンク等の責務、国の施策(国民の理解の増進、3種類の造血幹細胞に関する情報の一体的な提供、バンクの安定的な事業運営の確保等)を規定 骨髄バンク・臍帯血バンクを許可制とし、骨髄バンクに対してはドナーの健康の保護、臍帯血バンクに対しては品質の確保に関する基準の遵守など、業務遂行上必要な義務を課す 骨髄バンク・臍帯血バンクに対する補助の規定を設ける 骨髄バンク・臍帯血バンクに対する支援を行う支援機関を全国で1館に限り指定(日本赤十字社)

図表1

第一に考えることが重要だと考えています。

骨髄バンクの現状

次は、「造血幹細胞移植の実施体制」(図表2)のスライドです。色々な関係機関がプレイヤーとなって事業が行われている図式ですが、これも皆さん良くご承知のことと思います。ここからは、骨髄バンクの現状と課題を中心にお話しします。



図表2

まずは、「骨髄ドナー登録者の現状」(グラフ1・2)です。ポイントとしては、①ドナー新規登録者が2年前から10年ぶりに3万人を下回っている点です。ドナー登録者の獲得に向けた取組が必要だと考えています。

次に、②ドナー登録者全体の人数は増加していますが、年齢層別に見ると高齢化の傾向が顕著にみられる点です。今後は、よりドナーになっていた可能性が高い若年層に対する働きかけを進めることも極めて重要だと考えています。現在のドナー登録者における最も多い年齢層が42歳です。

10年前は33歳でしたので、それだけ高齢化したということがわかります。この年齢層を若い年齢層にシフトさせることが重要だと考えています。

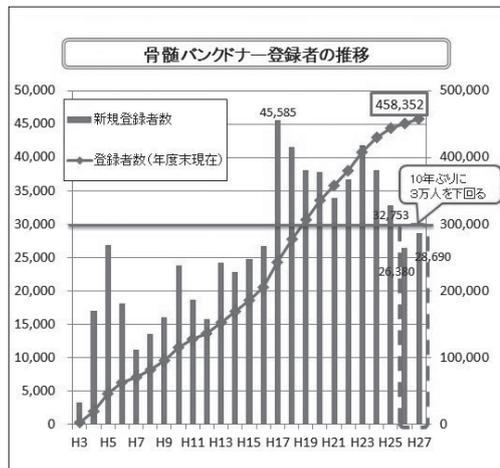
行政としましても、様々な機会にこういった状況を説明しています。例えば、都道府県の主管課長会議で紹介した「ドナー登録者増加に向けた取り組み事例」(図表・省略)です。若年層をターゲットとした、的を絞った企画をしなければなりません。実は地方自治体の方々も、何をどのようにすれば良いかわからないというのが実態だと思われま

す。地方自治体の担当者にも若い方は少なく、どうしても中高年層の発想になりがちです。若い方が多いのは、学校や民間企業ですので、そうした所への取り組みが特に求められており、役所に限らず、各分野の方々の知恵をいただくなど、各種ご協力も得ながら是非とも取り組んでいただきたいと思います。こうした取組については、全国の皆さんで情報共有することもとても大切になってきていると思います。

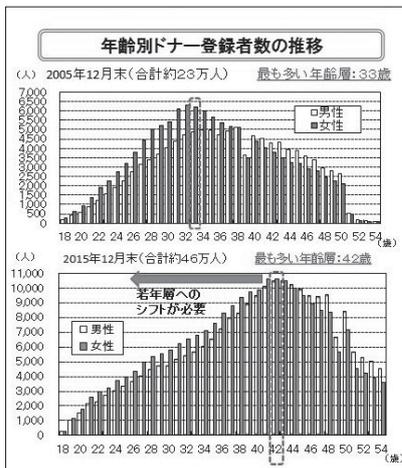
また、日本赤十字社さんが作成した中高生向け冊子も有効なツールであり、大いに活用していただきたいと思います。

骨髄バンクを介した移植の現状

次に、骨髄バンクを介した移植の現状についてお話しします。先程、全国協議会の方からもお話がありましたが、骨髄バンクとさい帯血バンクを介する移植数については、これまで共に増加傾向で推移してきましたが、平成27年度は骨髄バンクを介した移植が減少し、さい帯血移植数が骨髄移植数を上回る、という状況になりました(グラフ3)。この背景には、骨髄バンクでの移植までのコーディネート期間が長



グラフ1



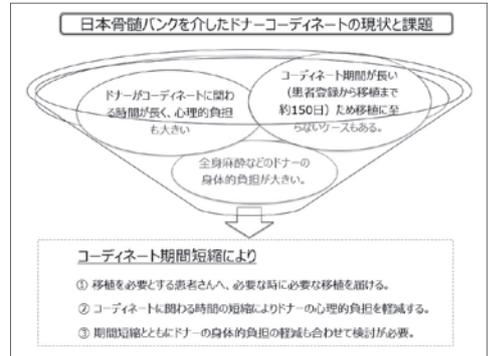
グラフ2

いたため、患者さんの病状などを踏まえ、さい帯血移植や血縁者間ハプロ移植に移行していることも一因と考えられます。骨髄バンクの財政状況の視点からみても、移植件数を増加させることは極めて重要な課題であり、また、骨髄バンクでも努力されてきたところではありますが、コーディネーター期間の短縮化は以前より大きな課題となっていました。今、まさに至上命題として骨髄バンクと連携し、取組を始めたところでございます。

「ドナーコーディネーターの現状と課題」(図表3)のスライドです。移植を必要とする患者さんへ、必要

な時に必要な移植を届ける、ということを実現するためにもコーディネーター期間の短縮化に取り組まなければなりません。さらに、移植を必要とする患者さん側からのみではなく、ドナーさんからみてもコーディネーター期間の短

縮化は、負担軽減につながることも対策が必要です。現在、患者登録からみたコーディネーター期間が約150日かかっていますが、私はこれをなんとか99日以下の二桁台にして欲しいと思っています。



グラフ3

図表3

コーディネーター期間短縮の視点

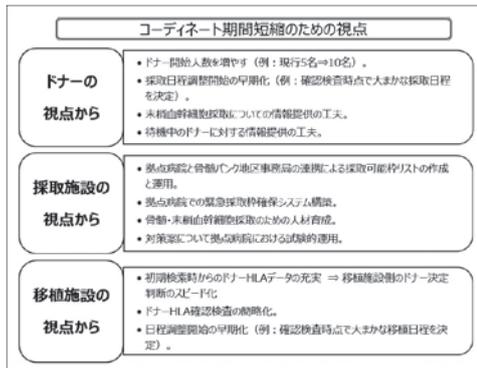
次のスライドは、「コーディネーター期間短縮のための視点」(図表4)です。これは、あくまでも一つの見方、考え方を示したもので、施策として実行するという段階のものではないため、視点という表現にしています。私の部下が「津軽弁」を駆使して、「こうしたら良くなるのではないか」、「こうしたいなー」と夢想を色々と話しかけてくるのですが、そうしたことをまとめた

スライドです。①ドナーの視点から、②採取施設の視点から、③移植施設の視点から、という三つの視点から、対策案を考えてみました。こうした対策を考える上で大切な点は、効率化と技術革新です。

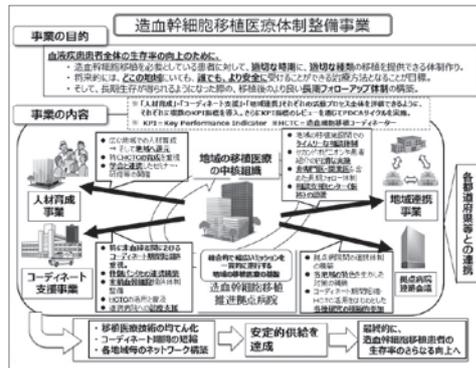
のやる気を失わせる事がないようにしなければなりません。骨髄バンクとも十分に連携をとりながら進めていく必要があると考えています。

拠点病院の整備

ここで、私どもが取り組んできた施策の「拠点病院の整備」について、ご存知ない方も多いかと思しますので説明したいと思います。「造血幹細胞移植医療体制整備事業」(図表5)のスライドです。この事業の目的・内容として



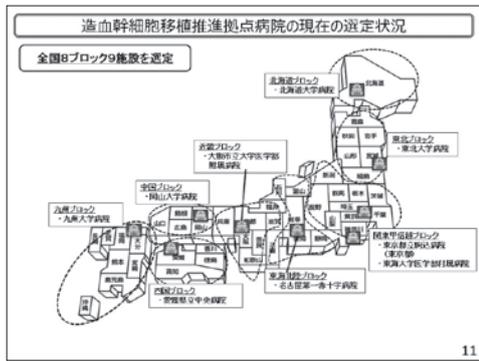
図表4



図表5

今日も Fight でボランティア! ⑧ アニメフェスティバル by 杉本 ほんみ





図表 6

現在の選定状況は、スライド（図表6）の通りです。これら8ブロック9施設の拠点病院を核にして、コーディネーター期間の短縮化にも取り組んでいきたいと考えています。

最後のスライドは、「ソーシャルマーケティング手法を用いた研究の取り組みの体制」（図表省略）についてです。フィリップ・コトラーというアメリカの経営学者で、現代マーケティング理論の第一人者がおられます。マーケティングというと、ただモノを売る理論と思われそうですが、医療とか福祉とかの社会的な問題に応用して、いかに効率的な事業とするかという、いわゆるソーシャルマーケティング手法を確立した方です。

今年度、臓器移植も含む移植医療全般で、このソーシャルマーケティング手法を取り入れたシステム効率化やド

ナーへのより良いアプローチ方法の開発に向けての研究に力を注いでいきます。ここに3つの研究班がありますが、「骨髄バンクコーディネート期間の短縮化とドナープールの質向上に関する研究」を福田先生に班研究として取り組んでもらいます。この研究には、医師に加えて経済学者やマーケティング関係者が参加し、そして、骨髄バンクにも協力してもらい、どうすれば実現できるのかなどを提言していただくものです。是非とも成果をあげて欲しいと思っています。以上で、私の話を終わります。

お断り：本講演要旨は、当協議会が責任編集したものです。

「血液がんの治療～これまでとこれから」

東大医科研附属病院 第63回市民公開医療懇談会
血液腫瘍内科東條有伸教授講演 参加レポート

血液がんの治療に用いる従来の抗がん剤は、DNAの合成期に効くタイプが主で、慢性骨髄性白血病(CML)、多発性骨髄腫(MM)にはやや効きにくく、正常な細胞も攻撃してしまう欠点がありました。そこに分子標的薬が出てきて、がん細胞に標的を絞って攻撃出来るようになり、副作用も軽減された。例えばイマチニブ等によって、CMLの死亡数は激減した。

エピゲノム薬と言われる遺伝子発現のスイッチを調節するタイプの薬も出てきており、アザシチジンは、骨髄異形成症候群(MDS)で効果を上げている。また、抗体医薬と言われる腫瘍の抗原に作用するタイプ、例えばリツキシマブは悪性リンパ腫(ML)で効果を上げている。これらの分子標的薬、抗体薬の分野では、現在、申請中の薬を含め、多くが開発されて来ているとの紹介がありました。

最近、免疫療法(細胞移植を含む)が注目されはじめています。ひとつは、がんチェックポイント阻害療法で、がん細胞がT細胞の攻撃にブレーキをかけるのを阻害するもので、悪性黒色腫(メラノーマ)の治療に期待されている。また、キメラ抗原受容体CARをT細胞に導入し、がん細胞を攻撃させ

るものは、急性リンパ性白血病(ALL)治療等に期待されている。

このように新しい治療法が多く開発され始めている中、それらをどのように、うまく使うのか。また高額となる医療費の問題も生じて来る。そのためには、ヒトの正常細胞及びがん細胞のゲノム情報が必要である。病気に特徴的な遺伝子変異の情報を集積し、エビデンスを創出する必要がある。米国で進んでいる。これら病気のゲノム情報に基づく治療法による米国の成功例も紹介されました。

最後に私の感想としては、個人別の正常遺伝子、病気の遺伝子情報により、がん治療に向け、その方の最適治療法が選択されていく時代が、近い将来、実現していくのではないかと思います。

ました。(文 千葉骨髄バンク推進連絡会 溝口理文)

賛助会員の皆さま紹介 (敬称略)

【特別賛助会員】

山崎 裕一＝東京

【一般賛助会員】

中西光太郎＝東京▽太平洋工業株式会社 寿司吉藤橋征雄 イビデン株式会社 (株)大橋薬局 矢橋大理石株式会社＝岐阜▽富士商工会議所＝静岡▽池田柁一＝長崎

【サポート会員】

柴谷みち子＝千葉▽旗野高一 匿名＝東京▽藤川行江＝神奈川▽早瀬正敏＝岐阜▽中山広子＝静岡▽末吉広光＝沖縄

【お詫び】287号の寄付の欄でお名前に誤りがありました。お詫びして再掲いたします。

募金箱

株式会社 有楽亭 現金 6,696円

心からのご寄付に感謝申し上げます ●4月15日～5月20日(敬称略)

パワーバランスジャパン株式会社	鈴木 純子	現金	1,348円	●このとりマリン基金	
現金 769円	匿名	現金	5,000円	匿名	現金 10,000円
㈱ゼロナビ	遠山 将一	切手	15,120円	●募金箱	
山村 詔一郎	井上 文乃	切手	3,582円	株式会社北越ケース	
藤波 敬子	若木 換	切手	3,909円	現金 計653,389円	
須藤 勝巳	若木 貞子	切手	200円	株式会社クスリのアオキ	
カマダ マサオ	●佐藤さち子患者支援基金			現金 1,039,904円	
一樂 邦彦	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	現金 計	22,421円	イオン九州株式会社	イオン都城店
エンドウ シュウイチ	三森 裕	現金	30,000円	現金	8,359円
野澤 明男	福原 卓也	現金	5,000円	●かざして募金	
				現金	21,335円

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会